



# カナダの鉱業

## 生産高で世界第3位、輸出額は第1位

カナダは鉱物資源に恵まれ、鉱業生産は米ソに次いで世界第三位、輸出は世界第一位を誇る。カナダの労働人口の約一割を雇用し、国民総生産の八・五パーセント(昨年の生産額で百三〇億カナダ・ドル)を稼ぎ、カナダの商品総輸出額の実に三五パーセントを占める鉱業は、カナダ経済のバックボーンであり、国民生活の維持向上に不可欠の産業といえる。同時に、カナダの北方フロンティアの植民と産業発展に鉱業が果たす役割も大きい。

カナダが現在生産する鉱物の種類は六〇を越す。カナダはニッケル、亜鉛、石綿、銀の生産高において世界に比肩するものがなく(特にニッケルは世界の生産高の半分近くを占める)、カリ、モリブデン、硫黄、ウランの生産は世界第二位、銅と金の生産は世界第三位、アルミニウム、鉛、カドミウムの生産は世界第四位という有数の鉱業国。錫やマンガン、クロム、ボーキサイトなどのように輸入した方が安くつく二、三の鉱物を除いて、ほとんどの鉱物資源を自給し、かつ海外に輸出している。昨年は総額百三十四億ドルにのぼる鉱物資源が生産され(内訳は金属三六パーセント、燃料五一パーセント、非金属一三パーセント)、原鉱、半加工の鉱物輸出はカナダの全商品輸出額の三五パーセント近くに達した。そのうち特に重要なものは原油、天然ガス、鉄、ニッケル、石油および石炭製品、銅、アルミニウム、カリなど。

カナダの鉱業は、今後、国内加工への



傾向が強まること予想される。これは、鉱工業の付加価値を高めるとともに、第二次産業における雇用機会を増進するためであり、これによって鉱山、製造所、精練所、加工工場などの建設のための資金需要はさらに高まるだろう。今後十年間にカナダのエネルギー資源開発および関連の交通網整備に一千五百億ドル、金属、非金属鉱物資源の開発に五百億ドルの投資が必要だといわれる。

カナダは、その鉱業を健全に発展させ、ますます拡大する世界の鉱業市場の中で自らの地位を守るため、大きな試練に直面している、といえよう。



カナダの連邦政府および各州政府は、石油、石炭、天然ガス以外の鉱物資源に関する基本方針に合意した。この中で、今後の討議に当たっての重点目標として、次の諸点が上げられた。

一、鉱業政策は、まず第一に、鉱業を基礎とした国家および地域経済の多角化と成長を図るべきである。それには、鉱物加工の増進だけでなく、国内での鉱工業の増大および経済の各分野との連携増大が含まれよう。

二、鉱物加工や鉱工業の増進が得意な場合は、カナダが輸出から最上の見返りを得るよう図る。

三、場合によっては、経済的多角化や

鉱物からあげる利益の率を緩和し、資源の保護に力を入れる。

カナダ政府は四月二十七日、下院に新エネルギー政策を提出した。政策の骨子は、北方地域の石油資源開発を強力に進める、石油産業が開発を実行できるように原油および天然ガスの価格を今後二年

## オリンピック施設いよいよ完成へ

●開幕を待つモントリオール●



労働争議やインフレの影響などで工事が遅れ、一時は開催さえ危ぶまれていたモントリオール・オリンピックは、氷が解け、春が到来するとともに準備も急ピッチで進み、関係者は最後の仕上げに取りかかっている。

工事中の施設は三月中旬以来、何度か報道陣や一般に公開されているが、これまで工事の進み具合にかなり悲観的だった国内各紙も、「驚くべき進展」(モントリオール・ガゼット)、「奇跡的」(ル・ジャーナル)などと、賞めあげている。工事中の施設のうち、水泳競技場はプールの外郭が完成し、タイル張りや観客席のとりつけもほとんど終了した。スタジウムは芝土およびトラックの整備にかかっている。観客席は、工事の遅れで仮設することも考えられていたが、七万席のうち五万は恒久客席が取付けられ

▲完成を待つオリンピック・スタジウム(三月現在)。ここで開会式、閉会式、フットボールおよび馬術競技などが行なわれる。  
▼オリンピック・ペロドローム。自転車競技場であるが、真中にテニスコート五面をおくほか、ハンドボール、ボクシング、レスリング競技場および会議場としても利用できるようになっている。

